

実戦！賃貸共同住宅で 5.1ch を楽しむ術

春になり、新居で新しい生活を始めた方もおられることでしょう。

たまたま賃貸の 1K で 5.1ch (2ch を含む) を実現したいというご相談を受けましたので、今回はこれについて一体どの程度の事が出来るのか検討しました。

一般的には RC 造のマンションや戸建てに比べて条件は不利です。「賃貸」なので遮音リフォームは出来ないし、「共同住宅」なので上・下・左・右の隣人に気配りが必要だからです。

何よりもまず重要なことはどの位の音を出せるのかを認識することです。

1 賃貸共同住宅で出せる音は max.75dB

これはアンプのボリュームの位置で 9 時位です (ボリュームの 1 時間の違いは大体 7dB の違い)。

この数字の根拠ですが、

- (1) 静かな住宅地で夜間の騒音規制は敷地境界線上で 45dBA。ただしこの数字は共同住宅の界壁に適用されるものではないことに注意が必要です。
- (2) 界壁の遮音性能は 30dBA 程度。引き違いサッシや玄関ドアについては、隙間が多いので 15dBA 程度。
ゆえに、 $45dBA + 30dBA = 75dBA$ となります。

この 75dBA という数字をどう評価するかですが、はっきり言って物足りない。少なくとも 80dB は欲しいところです。

では現実的にどのような工夫が出来るのか、それは次のふたつだと思われます：

- (1) いわゆるニア・フィールド・リスニング
要するにスピーカとの距離を縮めること。2ch ステレオではこの手が使えます。
- (2) 1 日の中で時間帯を決めて隣人達の了解を取り付けること。
些少でも月々のお礼を払うとよいと思います。
騒音問題は感情的な対立になる事が多く、そうなるともう手の打ちようが無くなります。事前に手を打つ方が無難です。

次に映像機器、AV アンプ、ユニバーサルプレーヤと多数のスピーカを収容するラックについて検討します。

- 2 ラックは決め打ちでアイリスオーヤマのメタルラック・ミニシリーズ
木製ラックを特注するやり方もありますが、何しろ「賃貸」です。いずれ引っ越すわけなので、その際特注ラックは使い回しの点で難アリということです。
このラックが「メタル」ということには極めて重要な意味があります（次項参照）。
この製品はシステム化されているので様々なサイズの棚板・ポールを選択することが出来ますし、ストッパー付きのキャスターも重宝するはずです。
まずはメタルラック総合カタログを取り寄せて、最適な組み合わせを検討して下さい。おそらく3台のラックが必要で、真ん中の1台は大型映像装置を載せるため低くすることになるでしょう。
また棚板には原則として適切なサイズの厚 12mm のベニヤ板を載せて下さい。これにも重要な意味があります。
例えば SEM-5508 (55cmW×35cmD×83cmH) というセットものは Amazon で 3 千円程度です。

ここで、遮音・振動遮断全般に関わる重要な概念について説明します。スピーカの振動を直接床や壁に伝えてはいけないという理由を理解してほしいからです。

- 3 音響インピーダンスの異なる材料の境界では音振動はうまく伝わらない
ある材料の音響インピーダンスとは、その材の音速×単位体積の重さです。
材料1（音響インピーダンス Z_1 ）と材料2（音響インピーダンス Z_2 ）が接する場合、その境界面での音振動の反射率は $(Z_1 - Z_2) / (Z_1 + Z_2)$ となります。従って透過率は $(1 - \text{反射率})$ です。
つまり音響インピーダンスが大きく異なる材料の境界面では音振動の大部分は反射してしまうので通過出来ないということです。
例えば水と空気の境界面では音振動はほとんど反射してしまいます。
この事を理解すれば振動遮断のために 10 円玉を効果的に活用することが出来ます。

おしまいは 5.1ch システムを運用し管理し手入れするために役立つモノのリストです。これ以外にもあるでしょうが、とりあえず気が付いたものを列挙します。

4 いろいろなモノ達

(1) SP ケーブル

これはベルデン 8470 で決まりです。秋葉原のコイズミ無線だと 260 円/m、送料は 740 円です。床や壁を這わせる場合はモールで固定します。

(2) RCA ケーブルなど

当初はありふれた赤白のピンコードを使用して下さい。

ケーブルのグレードアップはシステムの運用開始後、ゆっくりやりましょう。
今や高級ケーブル類は（中古ですが）ヤフオクに山ほど出品されているので、安値で調達可能です。

(3) 必要な道具

- － デジタルテスター → 各種測定のために使います。
- － 検電ドライバー → 電源の極性チェックをします。各機器の電源は極性を揃えると音は静かになる可能性があります。
- － ワイヤストリッパー → ベルデン 8470 の被覆はとても固いのでカッターやニッパーで皮を剥こうとすると大変です。
- － JAS「AUDIO TEST CD1」 → 本来は精密騒音計とセットで使用しますが、これだけでもどの位の周波数まで音が出ているか分かります。

(4) 消耗品など

- － 綿棒 → ピン端子などのクリーニング。
- － ピカール（金属磨き） → ピン端子などのクリーニング。
- － シリコンスプレー → 金属部分の保護皮膜形成
- － ピアノ用ワックス → スピーカの保護皮膜形成
- － コンセントキャップ → コンセント穴塞ぎと端子の酸化防止
- － 爪楊枝 → 2液タイプのエポキシ接着剤の混合と塗布
- － コンセント端子磨き → 厚手のボール紙などで自作しピカールを少量塗布して端子を磨く。

以上ですが、5.1ch のシステムを構成する機器については全く触れませんでした。

その理由は、ちゃんとしたメーカーが出している機材についてはいまや特段の優劣はないと考えているからです。

何でもいいとまでは言いませんが、フツウの価格帯の製品で十分です。むしろその性能を十分引き出せないことの方が余程心配です。

自動車に例えると、時速 200km で走れる車を制限速度 40km の一般道で走らせるようなことになりかねません。だったら最高速度 100km の車で十分じゃないかということです。

（そうは言っても趣味の世界のことですから、自己満足のために高価な機材を揃えることを否定はしませんが）

むしろ機材より重要なことは、良質なソフトをどうやって見つけるか探し出すか、です。

また、基本的なコトですが、5.1ch の音源がどのような考え方で制作されているかは知っておくべきことでしょう。「正しい再生」に役立つはずです。

最後に、くれぐれも隣人とのトラブルだけは避けて下さい。自分の主張と相手側の主張の折り合いをつけることが 5.1ch システムを楽しむための鍵です。 以上